

授業科目名	保育内容「環境」指導法		担当教員名	吉本 春樹
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分 等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） 環境 / 保育内容演習	
必修・選択/単位数	必修 / 1単位（15時間）		授業方法/担当形態	演習 / 単独
開講学年/学期	2年 後期（4期） / ※令和8年度は開講しません		特記事項	※「保育内容演習」の指導内容を含む
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「環境」の主旨に沿い、子どもの発達段階を中心に据え、自然事象や社会事象を具体的に解説する。遊びや素材を生かした保育活動を進めることができるよう製作活動も取り入れながら進めていく。 ※ICTの活用、協働学習を含む。			
到達目標	<p>(1)幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域「環境」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤領域「環境」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>			
テキスト	「保育内容 環境」(光生館)			
参考書・参考資料等	「平成29年度告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)			
成績評価の方法	授業への参加意欲(20%)、授業への貢献度・プレゼンテーション(30%)、レポート等提出物(50%)			
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等				
授業計画	授業の内容			到達目標番号
第1回	<ul style="list-style-type: none"> ・園環境を具体的にデザインする。 ・園内保育、園外保育の計画と留意点について理解する。 ・教育・保育の現代的課題について理解する。 			(1),(3),(5)
第2回	<ul style="list-style-type: none"> ・季節と自然観を身に付ける方法を学ぶ。 ・季節に応じた、教育・保育活動の計画の仕方について学ぶ。 ・季節の特徴的な遊びを教育・保育活動に取り入れる方法を知る。 			(1),(2),(3)
第3回	<ul style="list-style-type: none"> ・自然と命に触れる機会を構想する。 ・自然事象への関心を高める工夫について考える。 ・幼児が身近な動植物に親しみをもち、生命の尊さに気付き、大切にする姿勢を身に付けることができるような保育を考える。 			(1),(3),(4),(5)
第4回	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の記録と映像資料等の活用について考える。 ・幼児理解に基づく評価を知る。 ・指導過程の評価を大切に、保育の改善に役立てる。 <p>※ 指導案作成</p>			(2),(3),(4)
第5回	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の「学び」の特性を理解する。 ・幼児の身近な事象、ものや遊具に興味をもって関わることができるように導く力を付ける。 ・自然な生活の中での、数や量や図形などへの関心と発達を知る。 <p>※ 指導案作成</p>			(1),(3)
第6回	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力や科学的概念の育ちを促す環境を構想する。 ・成り立ちの仕組みに関心をもつことができる手作り玩具の製作を考え、実践する。 ・身近な物を大切にしている態度が育つ保育について学ぶ <p>※ 模擬保育</p>			(1),(2),(3)
第7回	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の文化や伝統、様々な国の文化に親しむことができる方法を考える。 ・生活の中での標識や文字などへの興味を引き出す保育を理解する。 ・地域社会の様々な情報を取り入れる遊びを工夫する。 			(2),(3),(4)
第8回	<ul style="list-style-type: none"> ・乳児期、2歳～3歳児の保育のポイントを知る。 ・幼児期から児童期、小学校教育との接続のポイントを知る。 ・小学校への接続を考慮した、教育・保育活動の展開を構想する。 			(1),(5)